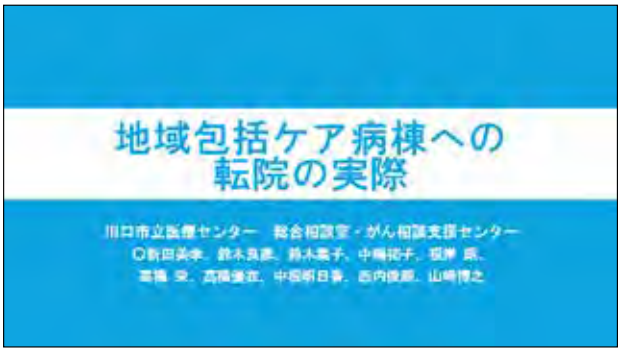
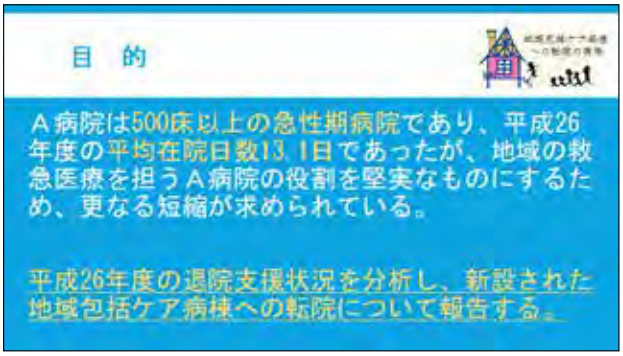
演題 314

地域包括ケア病棟への転院調整の実際

発表者　新田　美幸（埼玉県　川口市立医療センター　総合相談室・がん相談支援センター）

共同研究者　鈴木　良彦、鈴木　葉子、中嶋　祐子、高橋　栄、高橋　優衣、中根　明日香、根岸　朗、西内　俊朗、山崎　博之

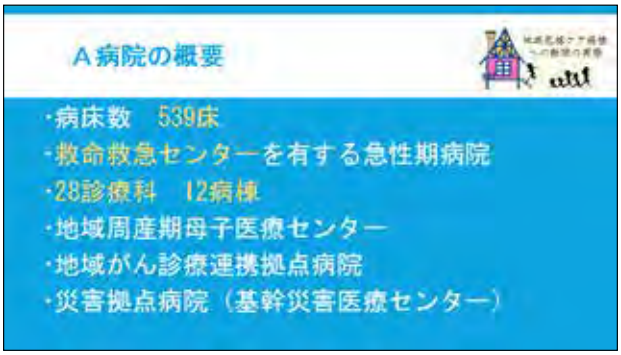




【目的】

当院は、急性期病院であり、平成26年度の平均在院日数は13.1日でした。地域の救急医療を担う当院の役割を堅実なものとするため、更なる短縮が求められています。

平成26年度の退院支援状況を分析し、新設された地域包括ケア病棟への転院について報告します。



その前に、当院の概要をお伝えします。

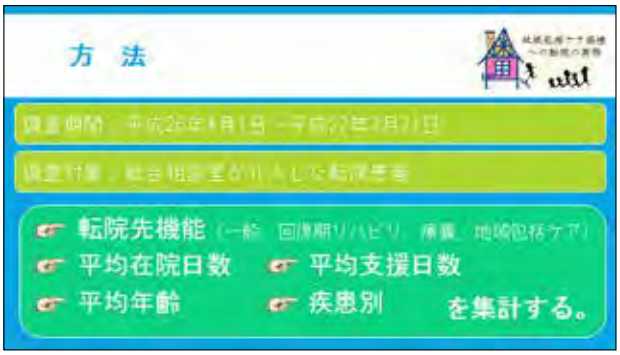
病床数　539床、救命救急センターを有する急性期病院です。

28療科　12病棟で、周産期母子医療センター　、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院（基幹災害医療センター）の指定をうけています。

当院が所在する川口市は、平成27年４月現在で、総人口約59万人、そのうち65歳以上の人口は21.61％です。

２次医療圏内に急性期病院が７病院、回復期リハビリテーション病棟が３病院、療養型病棟が12病院、昨年新設された地域包括ケア病棟が現在４病院あります。

このような環境での転院調整です。



調査方法ですが

平成26年４月１日から平成27年３月31日に総合相談室が介入した転院患者の転院先機能別で一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、療養型病棟、地域包括ケア病棟に分け、平均在院日数・平均支援日数・年齢、疾患別に集計しました。

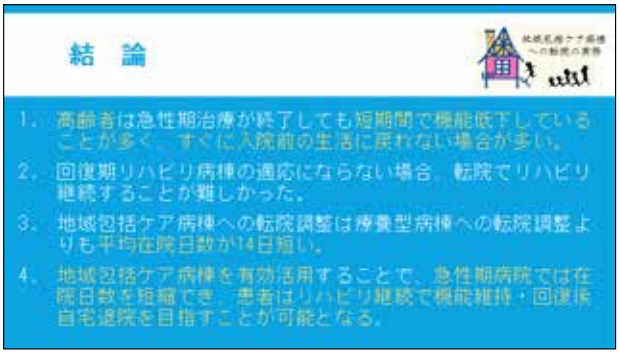
結果です。

平成26年度の総合相談室が介入した転院調整は570件で、転院先機能別では一般病棟へ125件、回復期リハビリテーション病棟へ258件、療養型病棟へ121件、地域包括ケア病棟へ66件でした。

療養型病棟と地域包括ケア病棟では調整の件数に違いはありますが、平均在院日数では51.4日と37.4日で14日間、平均支援日数では33日と26日で７日間、地域包括ケア病棟への転院調整が短くなっています。

地域包括ケア病棟への転院調整の詳細は、繰り返しになる部分もありますが、転院調整介入件数66件、平均在院日数37.4日、平均支援日数26日、平均年齢80.4歳でした。

疾患別では脳血管疾患が26件、肺炎・心不全15件、消化器疾患11件、整形疾患５件、その他９件でした。平均年齢も80.4歳で、90歳以上が10人であり、整形疾患では平均年齢が84.2歳と高齢でした。



【結論】

1．高齢者は急性期治療が終了しても短期間で機能低下していることが多く、すぐに入院前の生活に戻れない場合が多い。

2．回復期リハビリ病棟の適応にならない場合、地域包括ケア病棟ができる前は、転院でリハビリ継続することが難しかった。

3．地域包括ケア病棟への転院調整は療養型病棟への転院調整よりも平均在院日数が14日間短い。

4．急性期病院では治療後、次の療養先である、施設の空き待ち待期や在宅調整に時間を要する場合が多い。地域包括ケア病棟を有効活用することで在院日数を短縮でき、患者はリハビリ継続で機能維持・回復後自宅（施設）退院を目指すことが可能となる